

『地域とつながる』

～外部空間整備、景観～

①懇談会の振り返り

第1回(令和4年1月)

- ・整備事業概要(配置案) ・敷地周辺環境との関係性(条件整理)
- ・ユニバーサルデザイン(これまでの開発局の取組)

第2回(令和4年3月)

- ・庁舎計画(平面計画、プロムナード)
- ・敷地周辺環境との関係性(緑の連続、歴史文化軸)

第3回(令和4年6月)

- ・庁舎計画(コリドー、ミニ美術館) ・敷地周辺環境との関係性(建物ボリューム、外観、CG)
- ・ユニバーサルデザインレビュー(検討状況報告)

第4回(令和4年12月)

- ・庁舎計画(設計の詳細、ミニ美術館イメージ)
- ・ユニバーサルデザインレビュー、防災計画(トイレ、授乳室、帰宅困難者受入)
- ・保育園のお散歩同行調査進捗報告(北海道科学大学学生による調査研究報告)

分科会(令和6年7月)

- ・カラーユニバーサルデザイン勉強会

第5回(令和6年12月)

- ・サイン検証の方向性(カラーユニバーサルデザイン・北海道科学大学研究)
- ・札幌第4合同庁舎2期計画概要説明

第6回(令和7年3月)

- ・パブリックスペース利用について
- ・サインプラン検証(位置、デザイン、カラーユニバーサルデザイン)

第7回(令和7年9月)

- ・地域の賑わい創出…札幌龍谷学園高等学校との協働作業
- ・誰もが入りやすい庁舎を目指して(サインモックアップ検証によるUDレビュー)

第8回(令和8年3月)

- ・地域とつながる(外部空間整備、景観)
- ・パブリックスペースの活用(知ってもらう、利用してもらう、アートワーク)
- ・ユニバーサルデザインレビュー(完成時評価:館内施設、サイン等)

第9回(令和9年3月頃)

- ・1年経過後の運用段階の確認

第1回：今後の整備計画の参考となる様々なイメージについて

- ・本エリアは住居環境として札幌市内でも評価され人気の場所
- ・保育園でのお散歩（知事公館、近代美術館、公園等）
- ・安心安全な歩行動線の確保が課題
- ・消費者の部屋を通じ食の情報ははじめ農林水産省の情報をピアールする
- ・庁舎にできる食堂レストラン
- ・お天気公園、小さな美術館
- ・将来の美術ファンを増やしたい



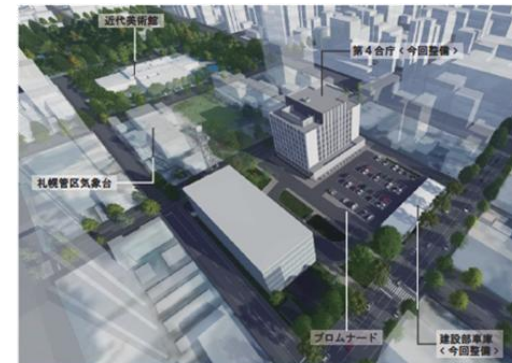
第2回：普段の生活の中で感じること、理想図を語り合う

- ・西洋紅花トチノキ並木
- ・ウォーキングマップ 地域の資源をもう一度掘り起こし
- ・保育園のお散歩に同行
- ・美術品の貸し出し（管理が不要な作品）
近代美術館でも検討
- ・北海道農政事務所こども向けイベント
- ・札幌龍谷学園高等学校 SDGsをテーマの活動
- ・安全な交通動線安心できる歩行（冬の課題、横断歩道）
- ・食育、木陰、ベンチ、休憩



第3回：全体計画について(ご意見・アイデアや要望の反映)

- ・ 内外部空間のイメージパース等、全体計画を資料に基づき意見交換を行った
- ・ 庁舎1階の基壇部分は、落ち着いた色合いで、地域住民が利用する空間にふさわしい外観となっている
- ・ プロムナード～東西の通り抜けは、今後の計画で期待される
- ・ ユニバーサルベッドの設置が望ましい



第4回：設計段階最後の懇談会(設計の総括)

- ・ 実施設計の内容について説明
- ・ 札幌市中心部保育園のお散歩同行調査進捗報告
 - ・ 歩くスピード
 - ・ お天気公園に行くことが多いので催等の魅力的なしかけがあれば寄り道コースになる
 - ・ 目的地にトイレがあると安心できる
- ・ 合同庁舎が地域と寄り添える関係にしていきたい



第5回：ユニバーサルデザイン、サイン計画、パブリックスペース利用

- ・ カラーユニバーサルデザインについて
- ・ 大学構内におけるバリアフリー検証結果について
(北海道科学大学)
- ・ 防災面ではこどもや車いす利用者など、あらゆる人々のバリアを取り除いた庁舎が望ましい
- ・ 誰でも庁舎に入りやすくなるような、サインなどの仕掛けが必要ではないか



第6回：サイン計画、パブリックスペース利用

- * 第5回の意見をもとに作成したサインプラン
 - ・ 情報を多くしすぎないようなサインがよい
 - ・ 明度差に注意してわかりやすいサインとしてほしい
- * パブリックスペース
 - ・ 若者がピンとくる名称を募集しては
 - ・ ミニ美術館ではプログラムを年間通して企画しては
 - ・ アートボードでウェルカムな空間を表現することも有効



第7回：地域の賑わい創出、サインモックアップ検証による ユニバーサルデザインレビュー

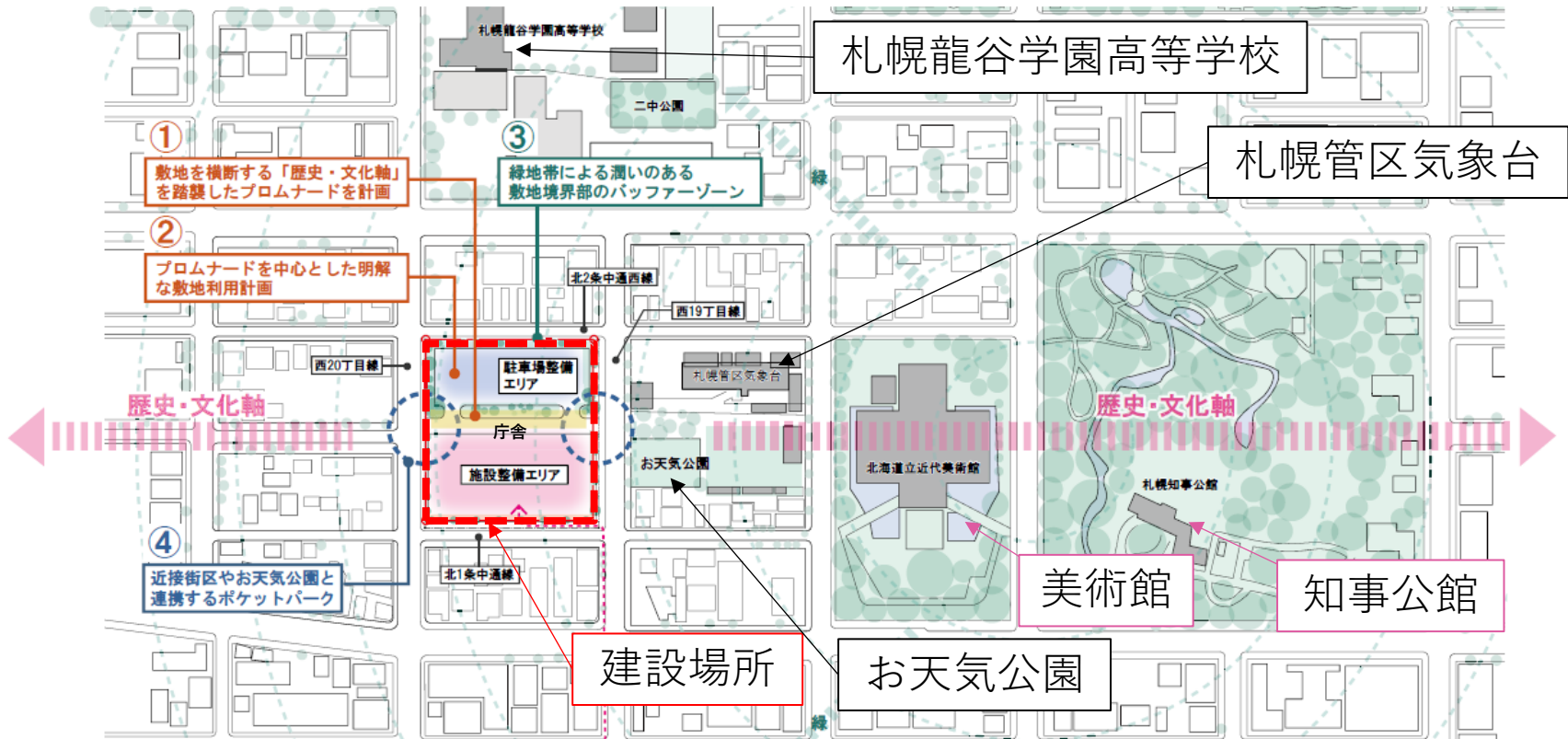
- * 地域の賑わい創出に関する取り組み（札幌龍谷学園高等学校との協働作業）
 - ・ 札幌龍谷学園高等学校の生徒によるアート制作と庁舎整備との協働作業について紹介
 - ・ “行ってみたい”と思わせられるかは難しいが、価値のある取組である
 - ・ アートの色彩で庁舎の雰囲気を柔らかくし、入りやすく感じてもらえる可能性がある
- * サインモックアップ検証によるユニバーサルデザインレビュー
 - ・ 構内に設置予定の案内サインについて、実物大の模型を用いて現地検証を実施
 - ・ サインは基本的に簡潔にするべき
 - ・ 近くに複数あるサインは表示内容の精査が必要
 - ・ 外部サインに庁舎マップを追加すると、一般来庁者の立ち入れるエリアが一目で分かり、入りやすさを感じてもらえるのでは



②整備状況(プロムナード)

懇談会意見

- ・近代美術館、知事公館、このエリアのまとまった緑は、この地域に重要な要素
- ・近代美術館から緑が繋がっていく、そして地域に拡散していく、一つのきっかけになれば
- ・ウォーキングマップ
- ・東西を軸とするプロムナード
- ・庁舎南北を軸とするエントランスコリドー





* 外観デザイン

- ・ 将来、2棟配置される計画のため、“単独で主張しすぎないこと”
“連続するデザイン”
- ・ 縦ライン案を採用
- ・ 基壇部と上層部の色分け
基壇部：落ち着いた有色系
(大地の色、周囲の緑と調和)
上層部：白～グレー系で軽やかに、
圧迫感を減らす
(周囲の建築と整合)

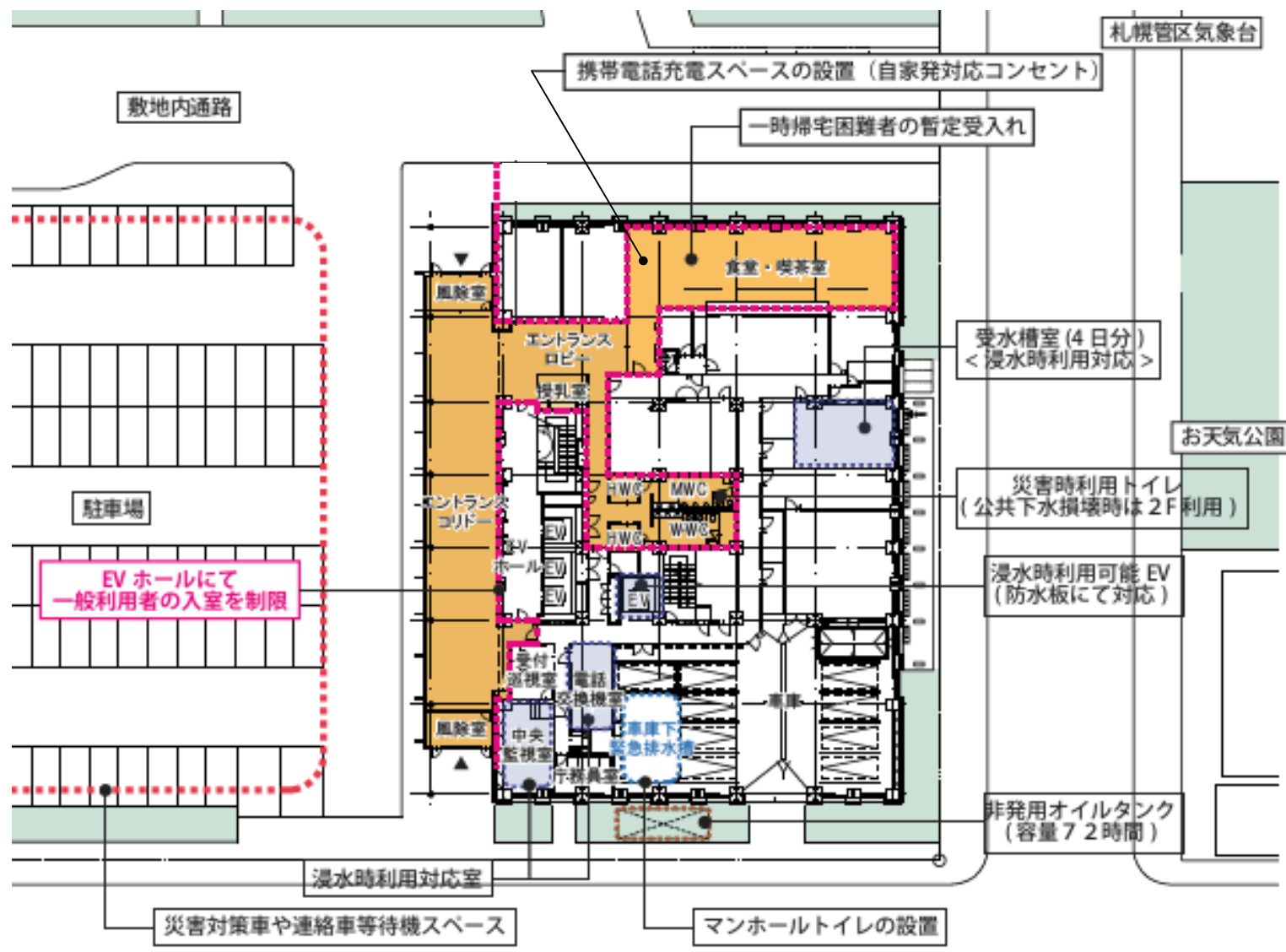


* 札幌らしさ・北海道らしさの付加

- ・ シラカバ、軟石、レンガなど地域性を象徴する素材の要素を外観や低層部に取り入れる

②整備状況(防災拠点施設機能)

- ・一時帰宅困難者受け入れ、携帯電話充電用コンセント、マンホールトイレを整備
- ・職員と一時帰宅困難者の動線分離

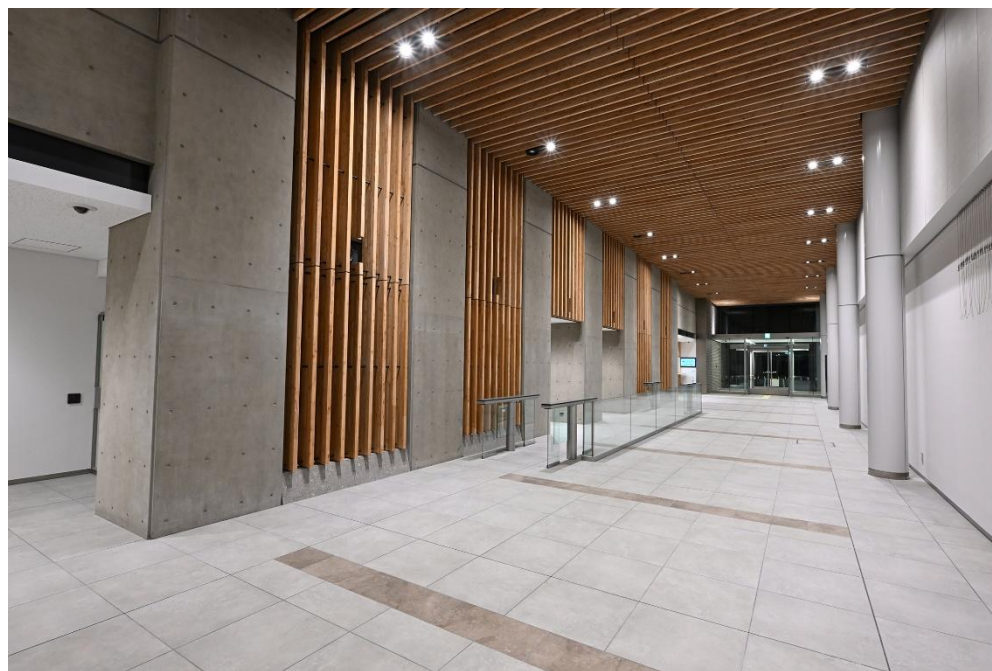


懇談会意見

- ・小さな美術館構想
- ・通りがかりの市民も入りやすい庁舎に

→エントランスに「ミニ美術館」を整備

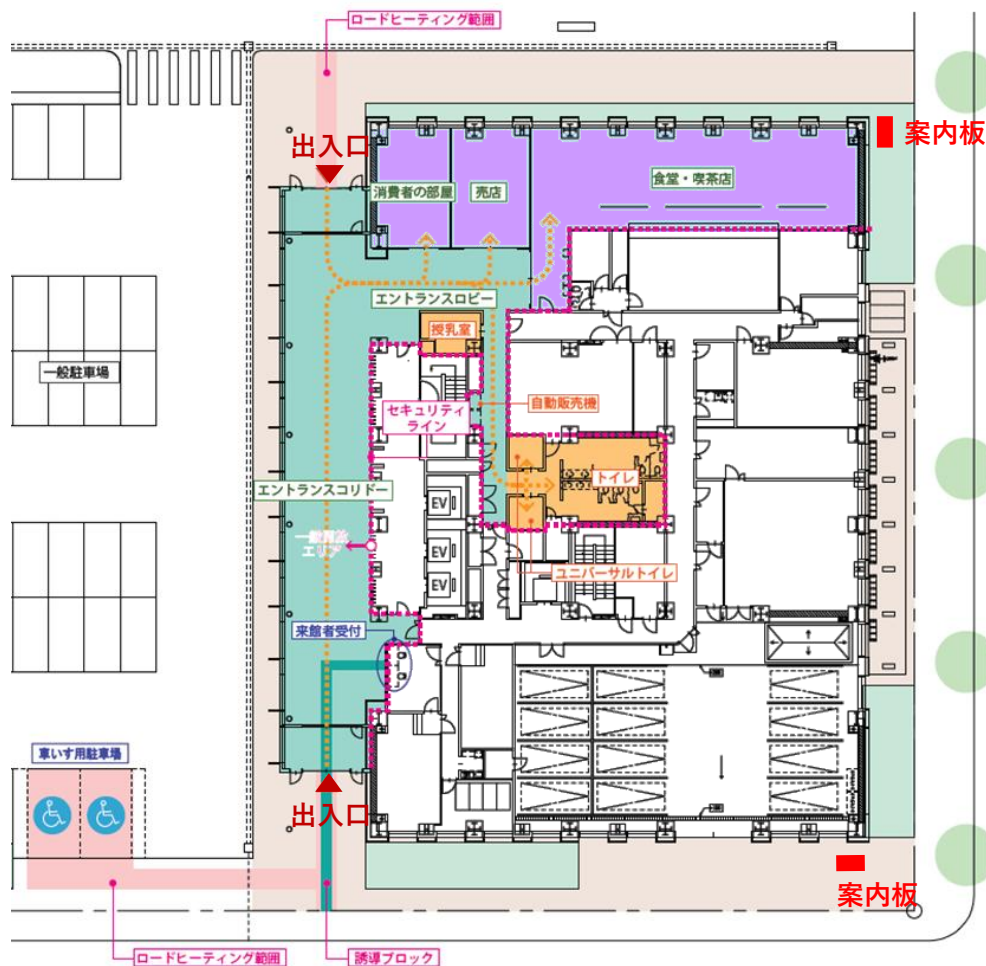
(札幌龍谷学園高等学校 美術部の作品展示、近代美術館のポスター等を掲示して、コラボできれば…)



『パブリックスペースの活用』

～知ってもらおう、利用してもらおう、アートワーク～

一般の方が自由に入れるエリア



- ・ エントランスコリドー／ミニ美術館
- ・ エントランスロビー

- ・ 農林水産省北海道農政事務所消費者の部屋
- ・ 売店
- ・ 食堂

- ・ 男女トイレ
- ・ 車いす使用者用トイレ
- ・ 授乳室
- ・ 自動販売機

パブリックスペースにアートワーク (★) を展示

札幌龍谷学園高等学校美術部の
生徒さんが作品を制作

庁舎に 親しみやすさ 温かさを

外来者・職員がみる、見るために訪れる

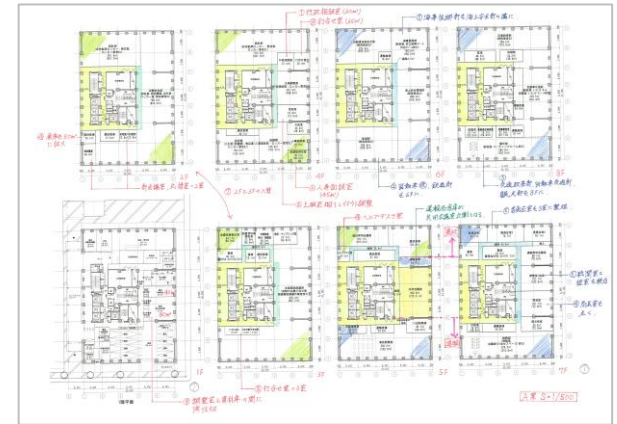
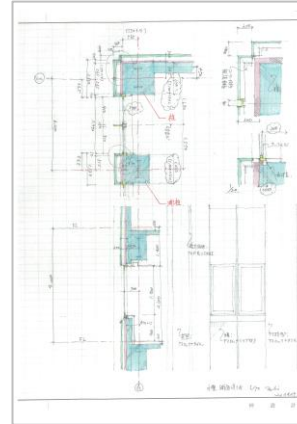




現場の見学

施工中の現場を見学。建物のイメージを膨らませ、作品の展示予定場所を確認。いろいろな材料があり、多くの人が往来しているなか、活発な質問もありました。現場事務所では、内外装材のサンプルを、手に取って見ました。

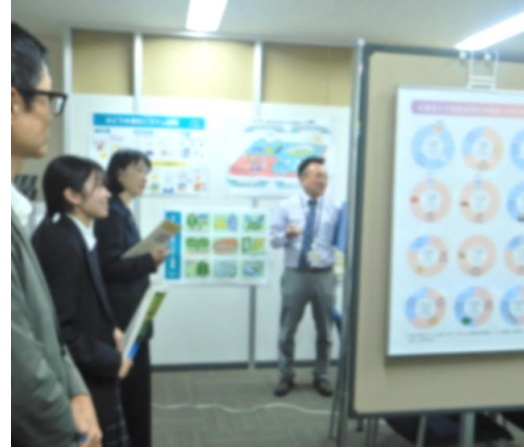
食堂のイメージを知るため、札幌開発建設部の食堂にもお邪魔し満腹になりました。



設計者への取材

「建物との調和を図るため、ビルをデザインした方のお話を伺いたい。」

設計者である梓設計さんに、お時間をとっていただき、対面で機会を設けました。設計の詳細な条件を把握し、検討を重ね、建物のデザインに反映しています。設計にかける想いを聞き、いろいろなスケッチなども見せていただきました。



北海道農政事務所への取材

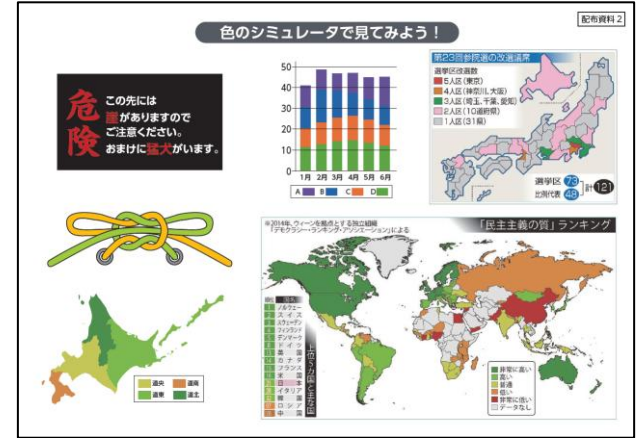
「消費者の部屋」を知るため、農政事務所を訪れました。

「農政事務所って何をするとところ？」に始まり、「北海道は日本の食糧基地である」という統計的なお話、、みどりの食料システム戦略や少子高齢化に対応するスマート農業といった主な施策を伺いました。

現在の消費者の部屋に移動し、展示を見学。今回は統計の日にちなんだ展示でした。テーマを決め年に5～6回展示替えをすること。

「消費者の部屋」は、農業を消費者までつなぐ大事な役割をになっています。

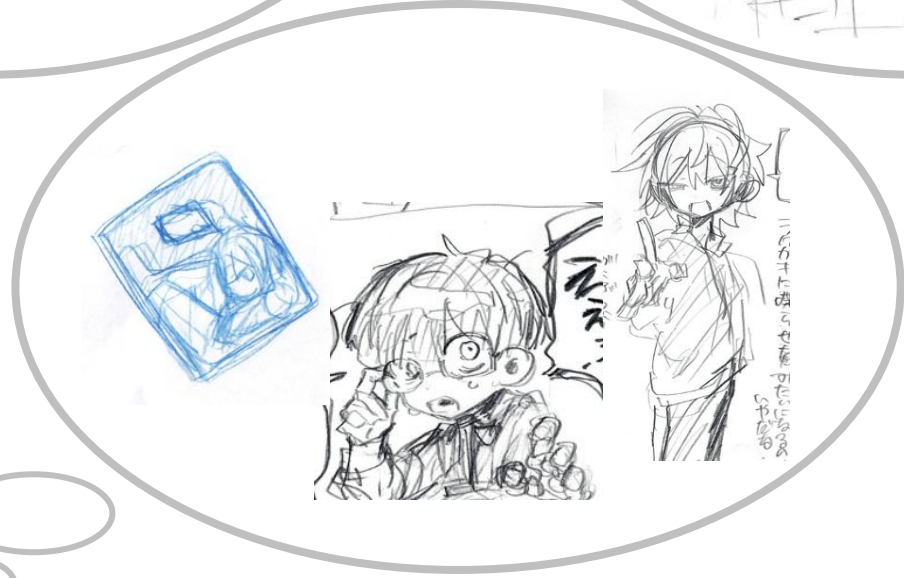
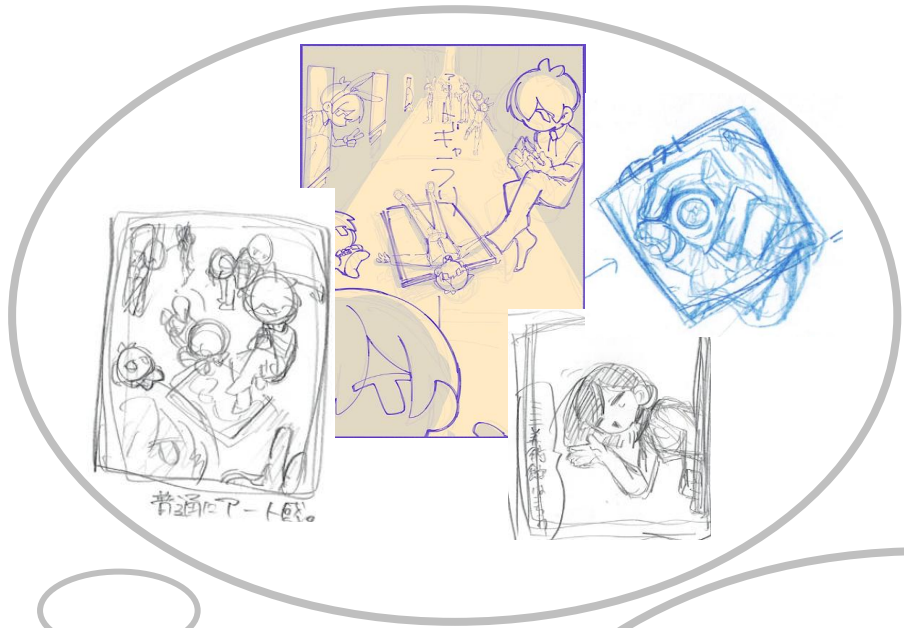
制作に向けて CUDを知る



カラーユニバーサルデザインの講義

キュープランニング北名先生に札幌龍谷学園高等学校で講義をしていただきました。美術部員のほかに、有志の生徒さんも集まりました。人のもつ色覚の多様性を解説していただいたあと、各自で色のシミュレーションアプリを使用し、多様な色の見え方を体験しました。カラーユニバーサルデザインのポイントや、今回のアートワークを意識したアートとデザインの違いについても教えていただきました。参加した生徒さんからは、感嘆の声が上がり、大きくうなずく姿が見られました。

制作に向けて 試行錯誤しながら





作者の意図が伝わるよう、キャプションを作成することに。

アートワークは、デジタルデータで制作していますが、
作画している画面より拡大されることの影響、
印刷時の色味の違い等があり、イメージどおりになるよう、
複数回確認を行いました。

学業、部活、行事等、忙しい中、多くの時間を割いて、
アートワークの制作に取り組んでいただき、ありがとうございました。

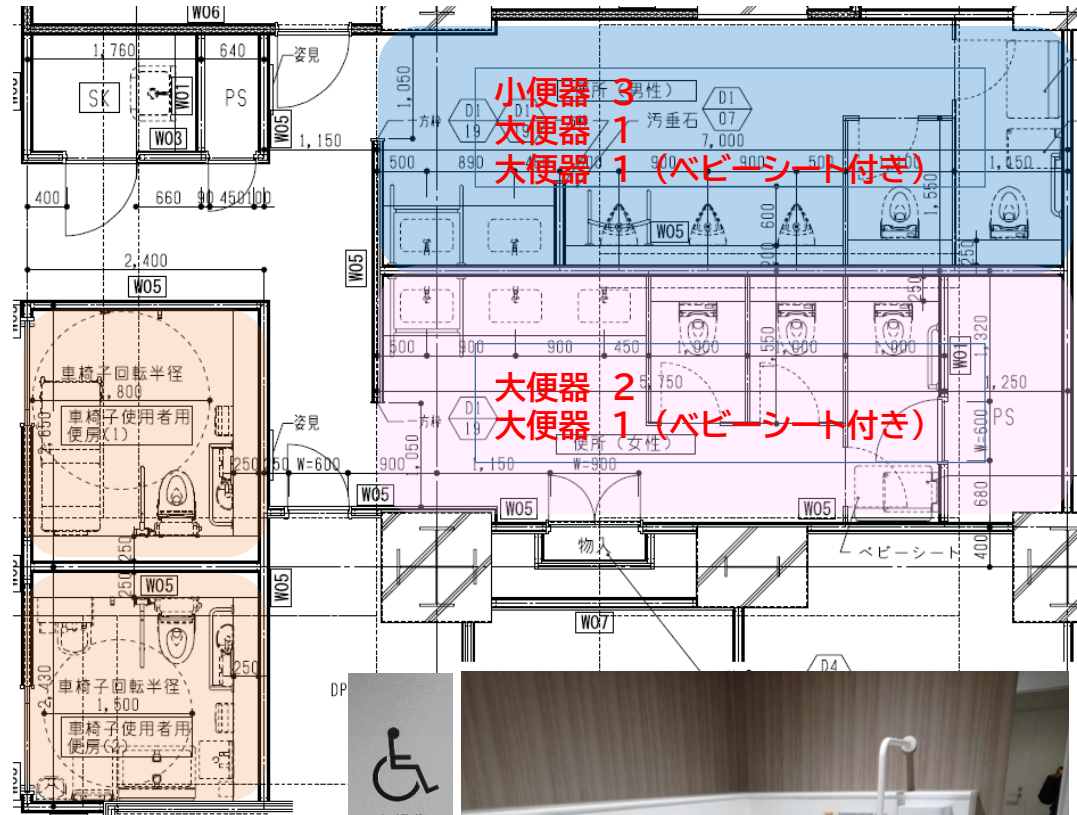
『ユニバーサルデザインレビュー』

～完成時評価（館内施設、サイン等）～

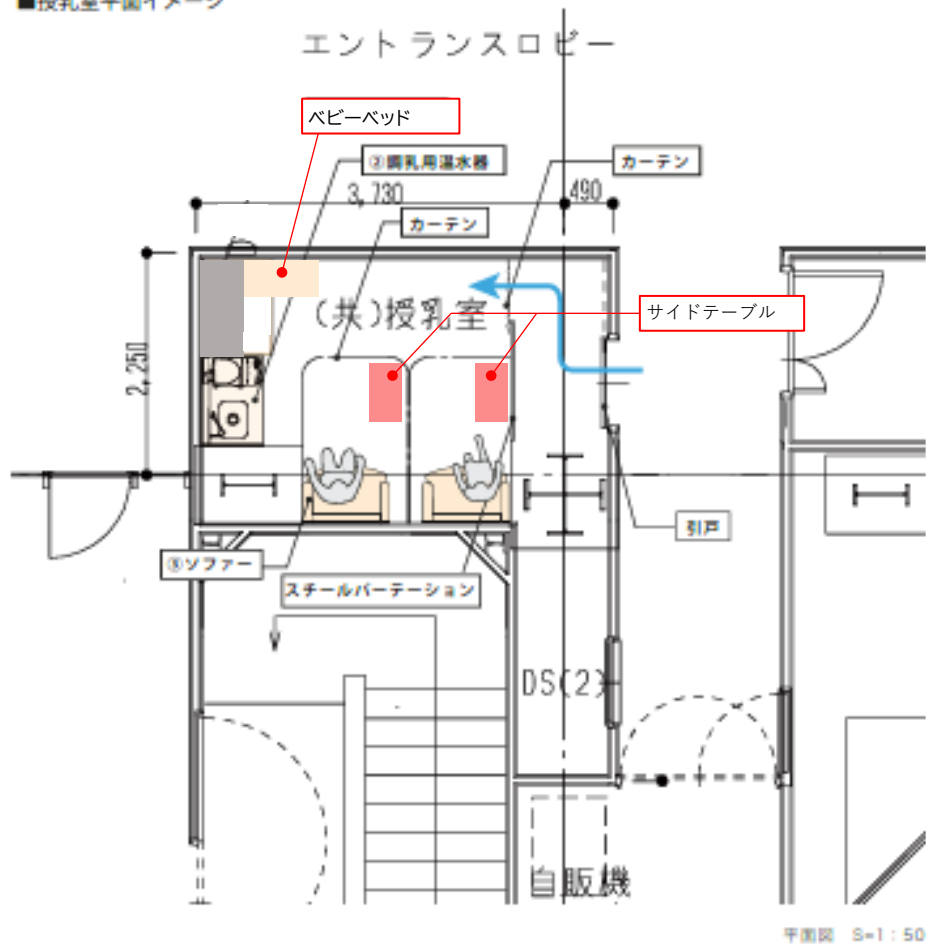
各段階での主な視点 施設整備の流れ 地域連携懇談会 (予定)



①館内施設



■授乳室平面イメージ



② カラーユニバーサルデザイン

- ・ カラーユニバーサルデザインの勉強会開催



北海道開発局職員・整備事業関係者向けに開催



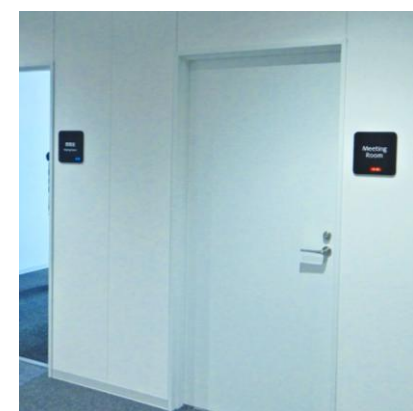
札幌龍谷学園高等学校での開催

② カラーユニバーサルデザイン

- ・ 明度差、モノトーン、朱赤サイン



見えやすいよう
白枠で縁取り





全体的に
伝えたい内容を
整理+デザインを
見直す

- ・庁舎名
- ・ピクトグラム

懇談会意見

- ・サインは基本的に簡潔にするべき
(何を伝えたいのか整理しては)

改善点

- ・文字やピクトグラムのサイズや配置を
見直す
→視認性の高いサイン



ピクトグラム
お天気公園側から
見ても認識できる



平面図
入口の位置
内部の間取り

文字
「当施設の1階は、
どなたでもご利用
いただけます。」

アート作品
・更新可能
・作品とキャプション

懇談会意見

- ・ピクトグラムのみだと、自由に出入りできるか分かりにくい
- ・建物マップを使い、自由に入れるエリアを図で表現してはどうか
- ・取り組み継続のためにアート作品は更新可能としたほうが良いのでは

改善点

- ・屋外案内板にマップ追加
(パブリックスペースを分かりやすく具体的に表現)
- ・アート作品は更新可能とした



● ミニ美術館

札幌龍谷学園高等学校美術部
Masuda 2026.2

この作品は「見る」という行為そのものから発想しました。
中央の大きな瞳は、世界を見る「目」であると同時に、鑑賞者自身を見返す存在でもあります。

瞳の中に浮かぶ地球は、私たち一人ひとりの内側に広がる小さな宇宙と、外に広がる大きな世界がつながっていることを表現しました。

光の重なりや透過の表現には特に苦労しましたが、瞳の幾何学的な形と色彩の対比は、冷静さ、そして広い世界へ飛びだそうとするまなざしを意図しました。

この作品とミニ美術館が、見ること・感じることへの新鮮な気持ちに気づききっかけになってほしいと願います。



●消費者の部屋

札幌龍谷学園高等学校美術部
Kouna.T 2026.2

農業を消費者までつなぐ大事な役割を担っている「消費者の部屋」をもっと知りたいと思い、北海道農政事務所のみなさんへの取材を行いました。

この作品は、取材を通して学んだ、農業における「生産」と「消費」、そして人と社会のつながりから発想しました。

中央の人物は、私と同世代の少年が社会と関わりながら主体的に生きる姿をイメージしています。背景の農作物、自動車や建築物は、「生産」と「消費」を構成する様々なピースです。それらの個々の営みが交わり、とても大きなエネルギーへと発展しはじける様子を表現しました。

若い人を含めた多くの人に、「農業」「消費者の部屋」をまずは知ってもらいたい、との願いを込めました。



●食堂

札幌龍谷学園高等学校美術部
Masuda 2026.2

日常空間である食堂について考えたときに、食＝生命の源、であることに改めて気づきました。

大きな猫は、生きようとする生命力の象徴と考えました。

魚たちが自ら猫の口へと行進していく様は、にぎやかな食堂のイメージからの発想ですが、古代の豊穡儀礼や中世のカーニバルのような、生きることそのものを祝うパレードを表しました。

星のように輝く猫の瞳と、魚たちの行進で、空間全体にリズムと高揚感を吹き込みたいと考えました。

いつもの日常の中で働くみなさんの心を、ほんのひととき解き放ち、午後のお仕事をまた頑張ろう、と思える存在となることを願っています。